

なごやぬいぐるみ病院活動報告書

文責 名古屋市立大学医学部 2年 大羽輝

概要

実施日時:平成 23 年 9 月 2 日 10 時半～11 時

実施場所:こすもす保育園 愛知県名古屋市

対象:2 歳児 5 人 3 歳児 9 人 4 歳児 8 人 5 歳児 4 人

学生参加者:14 名 (4 年 2 名、3 年 7 人、2 年 4 人、1 年 1 人、当日一名体調不良にて欠席)

当日の流れ

時刻	内容
7:45	実施可否のメール送信(台風の為)
10:25 - 10:39	保健教育①(食育)
10:39 - 10:55	保健教育②(マルモリ体操)
10:55 - 11:00	撤収

保健教育の内容

今回、以下のテーマについて保健教育を実施した。

・ 食育

<テーマを選んだ背景>

現在、様々なところで食育が注目されており、「食」というテーマは、子供たちにとっても身近な話題であるため。

<この健康教育を通してどの様になって欲しいか>

旬について知ってもらい、食と栄養について興味を持ってもらう。

<方法>

子供たちの前で、「スーパーの店員さん」「おやさいさん」「さかなくん」「おにぎりちゃん」の 4 人が、フリップや食べ物の絵を使って話をする。途中でクイズを二回行った。

<その方法を選んだ理由>

説明ばかりだと子供たちが退屈になるので、なるべく子供たちが積極的に参加できるようなクイズなどを通して行った方が効果的であると判断したから。

今回は、栄養について深く知ってもらうことよりも、食に興味を持ってもらい、手早くおうちの人などに伝えることのできる「旬」をメインにした。

・ 運動

<テーマを選んだ背景>

食事と運動をセットで行うことで、より健康になれることを伝えたかったのだ。

<この健康教育を通してどの様になって欲しいか>

食べることと運動することを有機的に結び付けられるようになってほしい。

<方法>

マルモリ体操を学生と一緒に踊る。

<その方法を選んだ理由>

動きが単純で、子供でも覚えやすそうな振り付けだったから。

体操を完ぺきにこなすことが目標なのではなく、体を動かすことが目標であることに留意。

総括

<工夫した点>

・ 食育

おやさいさん、さかなくん、おにぎりちゃんがそれぞれの体の中での働き(体を守る、体を作る、体を動かす)を説明することで、単に文にして説明されるよりもわかりやすかったのではないかと思う。

また、クイズを多く取り入れ、聞いてるだけではなく考えるということを通して、普通に文を読んでいるだけより飽きにくくできたのではないかと思う。

・ マルモリ体操

全部やるのではなく、特徴的な最初の動きをすることで、煩雑になることなく教えることができたのではないかと思う。

また、マルモリ体操自体も短い体操のため、フルでやってもそれほど時間を取らない。

<参加学生の反応>

・ 食育

参加学生は特にセリフを間違えるなどもなく、楽しくできていた。ただ、予想以上の質問(「薬が赤と白なのはなぜ?」とか)がくるとしどろもどろになることはあった。

・ マルモリ体操

子供のサポートをうまくできていたと思う。しかし、自分勝手な行動をとる子の対応などがまだうまくできる人が少なく、また食育班の人は体操を見ているだけだった。

<園児の反応（よい反応が得られた点について）>

- ・食育

クイズは予想以上に受けがよく、出題してからすぐに答えられる子がいた。

- ・マルモリ体操

体操が簡単だったこともあり、大半の子は上手に踊っていた。

<園児の反応（よい反応が得られなかった、もしくは收拾がつかなくなった点）>

- ・食育

クイズをしたとき、低学年の子がきょとんとして、話についてこられていない子がいた。

- ・マルモリ体操

最初から興味のない子が何人かいて、その子らは自分勝手なことをしていた。

<失敗した点>

- ・全体

学童の実施準備に比べて、時間が足りなかった。

- ・食育

すぐにクイズの答えを言い当てられる子がいる一方で、小さい子は答えを言われても「???'となっていた。レベルは一番小さな子に合わせるべきだが、そうすると年長の子は退屈になってしまい、そのあたりのバランス調整にもう少し配慮しておくべきだと思った。

- ・マルモリ体操

体操に興味を持って一緒に踊っている子が大半であったが、中には興味がなくずっとふらふらしたり、学生に絡む子もいた。そういう子供たちに対して、学生側が毅然とした対応をするという意識が学生の中に共有されておらず、どうすればよいかわかっていない学生もいた。

<その他>

食育について、園児の知識レベルが全体的にかなり高かった。ただこれに関しては、上記のとおり子供によってかなりムラがあるため、基本は一番小さなこのレベルに合わせてあげるべきだと考えられる。

改善点

<失敗した点を踏まえての改善点>

- ・全体

学童の準備に比べて、保育園実施のための準備期間は短かった気がするので、学童準備にも参加するとしても、その時にすべきことをきちんとしきってから別のことに参

加するべきだったと思う。学童実施が終わってから保育園実施が始めるまでの4日間でかなりバタバタしていた印象があるので、以降はなるべくそういった状況がないようにしたい。

- ・食育

クイズの内容をもう少し精査する。小さな子でも理解でき、大きな子でも退屈しないような…？

あるいは、わざと年長の子でもわからないだろう様なクイズをだし(キシリトールガムの食べ過ぎでお腹はどうなる?とか)、スタートラインを揃えたうえでクイズを行ってもいいかもしれない(但しこれを行う場合は、子供たちが答えを聞いて納得できるように十分な説明が必要だと考えられる)。

- ・マルモリ体操

まずは、学生側の意識を統一する。いうことを聞かない子に対しては、笑わずに毅然と「どうしてやってくれないの？」というなど、一度しっかりした意識付けを行う機会を行う必要性を感じた。

また、ただやり方を教えるだけではなく、時間があれば「どうして体を動かすといいのか？」ということについても伝えられたらよかったと思う。

<アンケート結果を踏まえての改善点>

- ・食育

旬の話はわかりやすかった、という評価を得ることができ、実施後には旬の話をしたり、食べ物に興味を示す子が増えたようなので、アンケート結果からは明確な改善点は見つからなかった。しかし、2歳児の保護者からは実施後に子供に変化が見られなかったという意見を頂いたので、2歳児に食育を行う際にはもっと簡単な内容にすべきだと思った。

- ・マルモリ体操

はじめに学生が曲に合わせて一通り踊りを披露してから、子供たちと一緒に部分的に踊る、という流れでマルモリ体操を行ったところ、せっかく部分的に踊りを覚えたのに中途半端に終わってしまったように感じた、という意見を得られたので、最後に一度全部通して踊ってもよかったと思う。

今回は最近話題のマルモリ体操を取り入れたが、保育園の子供たちはほとんど知らなかったなので、少し踊りが難しかったようである。したがって、もっと簡単に誰でも楽しく動けるようなものを取り入れた方がいいかもしれない。

以上